

にほん

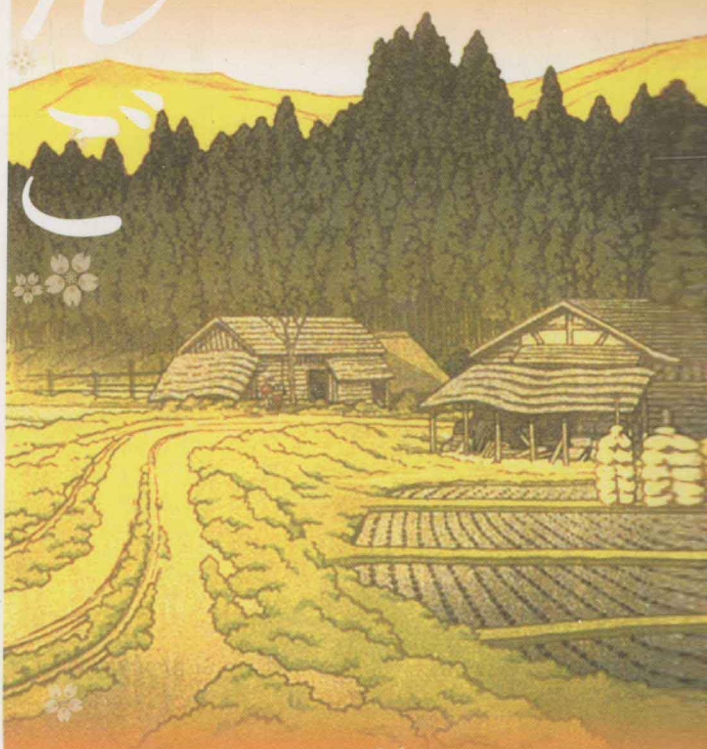
日本語能力考试

出题倾向与对策

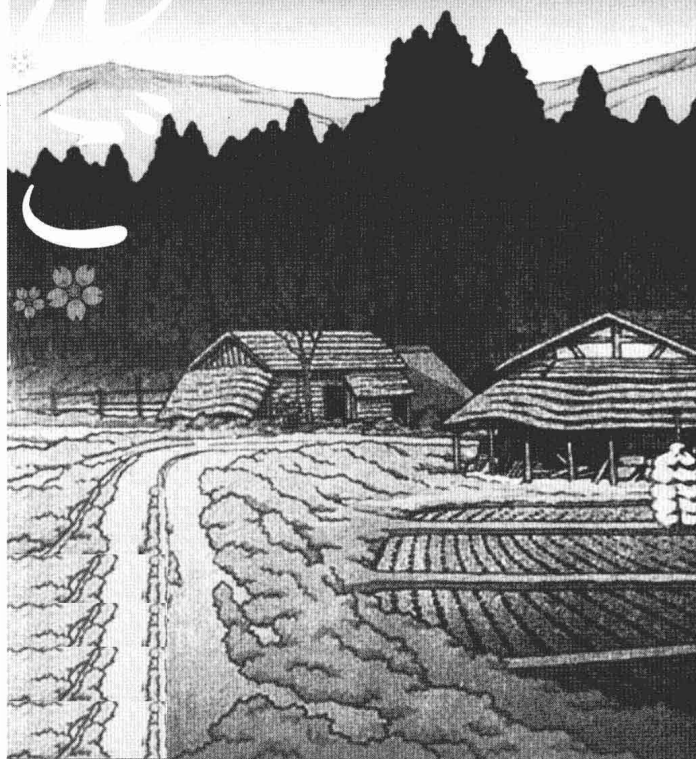
1 级读解 (修订版)

刘文照 海老原博 编著

华东理工大学出版社



にほんご



日本語能力考试

出题倾向与对策

1 级读解 (修订版)

刘文照 海老原博 编著

◎ 华东理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语能力考试出题倾向与对策 1 级读解(修订版) / 刘文照, (日)海老原博编著.

——上海: 华东理工大学出版社, 2006.9(2008.5 修订重印)

ISBN 978-7-5628-1959-2

I. 日... II. ①刘... ②海老原... III. 日语—阅读教学—水平考试—自学参考资料

IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 101172 号

日语能力考试出题倾向与对策 1 级读解(修订版)

编 著 / 刘文照 海老原博

策 划 / 陈 勤

责任编辑 / 苏 靖

封面设计 / 戚亮轩

责任校对 / 徐 群

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址: 上海市梅陇路 130 号, 200237

电 话: (021)64250306(营销部)

(021)64252717(编辑室)

传 真: (021)64252707

网 址: www.hdlgpress.com.cn

印 刷 / 常熟华顺印刷有限公司

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 11.25

字 数 / 278 千字

版 次 / 2006 年 10 月第 1 版

印 次 / 2008 年 5 月第 2 次

印 数 / 8051—14070 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-1959-2/H·573

定 价 / 25.00 元

(本书如有印装质量问题, 请到出版社营销部调换。)

本書の構成

本書は八課からなっています。さらに、課ごとに大きく五つのセクションに分かれています。

一、設問のパターン

設問のパターンを知っておいて、出題傾向が何かが分かるヒントです。

二、出題傾向

それぞれの出題傾向にはそれなりの形式があり、問題の答えにも直接につながっているため、その傾向を把握するのも必要です。

三、例題解析

出題傾向にしたがって、例年に出題された試験問題をモデル文として、分かりやすく分析しながら、問題の解き方を検討します。

四、練習問題

習得した読む能力や問題を解く方法を生かし、速くかつ正確に読みこなす練習の総まとめをします。そして、あなたの学習をアップさせる練習です。

なお、第8課の「模擬試験」は、最後にあなたの実力を検証します。

目 次

第 1 課	指示語問題	(1)
	一、設問のパターン	(1)
	二、出題傾向	(2)
	三、例題解析	(3)
	四、練習問題	(12)
第 2 課	原因・理由問題	(17)
	一、設問のパターン	(17)
	二、出題傾向	(17)
	三、例題解析	(18)
	四、練習問題	(27)
第 3 課	空欄補充問題	(34)
	一、設問のパターン	(34)
	二、出題傾向	(34)
	三、例題解析	(37)
	四、練習問題	(44)
第 4 課	5W1H 問題	(51)
	(Ⅰ) だれのこと	(51)
	一、設問のパターン	(51)
	二、出題傾向	(51)
	三、例題解析	(51)
	(Ⅱ) いつのこと	(56)
	一、設問のパターン	(56)
	二、出題傾向	(56)
	三、例題解析	(56)
	(Ⅲ) どんなこと、どのように	(58)
	一、設問のパターン	(58)
	二、出題傾向	(58)

三、例題解析	(58)
四、練習問題	(63)
第5課 正誤問題	(70)
一、設問のパターン	(70)
二、出題傾向	(70)
三、例題解析	(70)
四、練習問題	(80)
第6課 主題・主旨問題	(87)
一、設問のパターン	(87)
二、出題傾向	(87)
三、例題解析	(89)
四、練習問題	(97)
第7課 グラフ問題	(103)
一、設問のパターン	(103)
二、出題傾向	(103)
三、例題解析	(105)
四、練習問題	(126)
第8課 模擬試験	(142)
第1回	(142)
第2回	(155)
正解と解答	(167)

第1課

指示語問題

一、設問のパターン

1. 「これ/それ」とあるが、何のことか/何を指すか。
2. 「これ/それ」とは、何を指すか。
3. 「これは/それは～」とあるが、何が～か。
4. 「この/その＋名詞」とあるが、何を指しているか。
5. 「この/その＋名詞」とは、どのような意味か/どういうことか/どのような＋名詞を指しているか。
6. 「このこと/そのこと」とあるが、この/そのこととは何か。
7. 「このような/そのような＋名詞」とあるが、どういう＋名詞か。
8. 「このように/そのように」とあるが、どのような意味か。
9. 「こういう/そういう＋名詞」とはどんな＋名詞か。
10. 「こうした＋名詞」とあるが、どんな＋名詞か。

付録：指示語のまとめ

「こ」シリーズ	「そ」シリーズ	「あ」シリーズ	「ど」シリーズ
これ(ら)	それ(ら)	あれ(ら)	どれ
ここ	そこ	あそこ	どこ
こちら	そちら	あちら	どちら
こっち	そっち	あっち	どっち
この	その	あの	どの
こんな	そんな	あんな	どんな
このような	そのような	あのような	どのような
このように	そのように	あのように	どのように
こう	そう	ああ	どう
こういう	そういう	ああいう	どういう
こうした	そうした	ああした	○
こういっ	そういった	ああいった	どういった

二、出題傾向

(一)「こ系」は、すぐ前に述べた1文か2文を指したり、すぐ次に言おうとする1文か2文を指したりするものであるが、日本語能力試験の問題に出題されるのはすぐ前に述べた内容を指すものが圧倒的に多い。

(二)「そ系」は、「こ系」と同じくすぐ前に述べた1文か2文を指したり、すぐ次に言おうとする1文か2文を指したりするものであるといっても、過去問題の出題傾向を見て分かるように、すぐ前に述べたことを指すのがほとんどだ。

説 明 :

「あ系」シリーズの付く言葉で出題されるのは今までは一回もない。これからも出る可能性が低いと考えられる。これは「あ」の付く指示語の指す内容をキャッチするのが外国人の日本語学習者にとってかなり難しいことと関係があるのだろう。

また、「ど系」シリーズの付く言葉で出題される可能性はない。

要するに、日本語能力試験における指示語の設問はほとんど「こ/そ」シリーズの付く言葉しか出題されないと言える。

三、例題解析

出題傾向(一)指示語の指す内容は次に言おうとする1文か2文の場合

この場合、指示語がたいてい文章、或いは段落の始めのところに出るのが特徴である。そして、日本語能力試験では、こんなパターンの出題はごく少ない。

例題 1

私たちは^{よくぼう}(注1)欲望のかたまりです。そして、欲望は^{ぼうちよう}膨張をつづける^{うちゅう}宇宙のように限りがありません。

こんな話を想像してみましょう。ある中学生がお父さんやお母さんから^{まいげつ}毎月もらう^{こづか}お小遣いが、今までの2000円から^(注2)^{いっき}一気に20万円になったらどうするでしょうか？彼の欲望はとどまるところを知らず、前から欲しいと思っていたものを全部手に入れようと、お小遣いを持ってお店に飛んでいくに違いありません。(後略)

(中谷巖『痛快! 経済学』集英社インターナショナルによる)

2001年2級試験問題I

(注1)^{よくぼう}欲望のかたまり：欲望のために生きている人

(注2)^{いっき}一気に：一度に

【問い】 「こんな話」とは、どんな内容の話か。

1. 人間の欲望は宇宙と同じだという話
2. 人間は欲望のかたまりであるという話
3. ^{こづか}小遣いをたくさんもらいすぎて困った話
4. ☒ 中学生の1か月にももらう小遣いが増える話

正解： _____ 番

解き方

1. 設問の「こんな話」を頭に入れるだけでなく、「こんな話を想像してみましょう。」まで入れよう。また、「こんな話」とは、「こんな事/こんな事情/こんな例/こんな物語」などの意味だと理解すればいい。
2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
 - ①「私たちは～限りがありません」は、問題提起^{ていき}の部分で、答案の文ではない。
 - ②「こんな話を想像してみましょう～20万円になったらどうするでしょうか?」は、問題を分かりやすく説明するために^あ挙げた具体的な例である。
 - ③「彼の欲望はとどまるところを知らず～に違いありません」は、前に述べた事実による結果という部分である。
3. 答案の文を探してみよう。

文章にある「事実」を述べる例は、「ある中学生がお父さんやお母さんから毎月もらうお小遣^{こづか}いが、今までの2000円から一^{いっき}気に20万円になったらどうするでしょうか?」という文である。これを要約すると、「ある中学生の毎月の小遣が増えたとしたら、どうするか/どうなるか」ということになる。

4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。

選択肢 1と2は、答案の文の意味とまったく違うから、正解ではない。

選択肢 3は、「小遣いをたくさんもらう」という文が答案の文の意味に合っているが、「困った」は、文章の内容に合わないから、正解ではない。

したがって、正解は選択肢の“4”番である。

出題傾向(二)指示語の指す内容はすぐ前に述べた1文か2文の場合

日本語能力試験では、指示語についてのこのパターンの出題が一番多いので、重点的に勉強しよう。

例題 2

日本人は、水をめぐって古くから ^{あらそ}争ってきた。日本は ^{ひかくてき}比較的^に雨が多い国なので、水には不自由していないはずである。しかし、日本の川は流れが速くて利用が難しく、地下水が出るところも限られているため、水を得るには 大変な苦勞が必要であった。水がないために、米はもちろん、^{さくもつ}作物さえもほとんど作れない地方もあったのである。この事情は、基本的には現在も変わっていない。大きな川がない市や町では、となりの市や町に、金を払って水道の水を分けてもらっている。そのため、住む場所によって、水道料金には大きな^{ひら}(注)開きが見られる。

2000年2級試験問題Ⅲ—(3)

(注)開き^{ひら}：二つの物事の間^の差

【問い】 「この事情は、基本的には現在も変わっていない」とあるが、この事情とはどのようなことか。

- ① 水を得るためにしばしば争いが起きること
2. 日本は雨が多い国なので水が豊かであるということ
- ③ 水を手に入れるのは簡単なことではないということ
4. 水が不足していて米や作物を作れないということ

正解： _____ 番

解き方

1. 設問の「この事情は、基本的には現在も変わっていない」の意味をしっかりと頭に入れよう。

2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。

①「日本人は～争ってきた」は、よくないことですが、これは水不足による残酷な結果である。これを答案の文だと思う学習者がいるかもしれないが、設問にちょっと遠すぎるうえ、文章の核心問題ではないので、正解としてはちょっとむりだと思える。とりあえずこれを正解と考えてもよいが、これよりもっと説得力のある文があるかどうか、設問のところまでの文を読み続けてみよう。

②「日本は～はずである」は、いいことなだから、答案の文ではない。

③「しかし、日本の川～地方もあったのである」は、水をめぐる争い、水不足によって作物が作れない、などの悪い影響を与える起因になる文である。

3. したがって、答案は「しかし、日本の川は流れが速くて利用が難しく、地下水が出る場所も限られているため、水を得るには大変な苦労が必要であった。水がないために、米はもちろん、作物さえもほとんど作れない地方もあったのである」という二文にある。この二文をまとめれば、「有限な水を得るためにたいへん苦労したうえ、いろいろ問題が起こった」という意味になる。

4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。

選択肢1: は、根本的な要因ではなく、ただ水不足による問題点の一つではないので、正解ではない。

選択肢2: いいことなので、正解ではない。

選択肢3: すべての問題をもたらした要因なので、これが正解である。

選択肢4: 「地方もあった」とあるから、全体のことでないし、文章中には、「水が不足している」のではなく、「水がないため」とあるから、正解ではない。

注意点:

答案の文は下線文の後ろにあると、判断した学習者がいるかもしれないが、次の文の意味にふさわしい選択肢が一つもないので、正解が出るわけがない。

例題 3

(前略)

もちろん、数多い本の中には、すぐには面白さの伝わりにくいものもある。はじめは(注1)とつきにくくても、読み進んでゆくにつれて面白さが(注2)にじみ出てくる本がある。いったんは(注3)放り出したのに、何かのひょうしにもう一度手にしたとき、実に面白く読める、そういう類の本もたくさんある。

何度も読んで、そのたびに新しい面白さを発見する本もある。たとえば漱石の『吾輩は猫である』は、小学校三年生のとき以来、何度手にしたことか。二十歳にはそのときの、還暦には還暦の楽しみ方がある。

2002 年 1 級試験問題 II

(注1)とつきにくい: 親しみにくい

(注2)にじみ出る: 自然に外に現れ出る

(注3)何かのひょうしに: 偶然に

【問い】 「そういう類の本」とはどんな本か。

1. 面白さを発見するために読む本
2. 何度読んでも、面白さを発見する本
3. 第一印象とはちがう面白さを持つ本
4. 面白くなくても読み続けなければならない本

正解: _____ 番

解き方

1. 設問の「そういう類の本もたくさんある」まで読んで、文の意味を理解しよう。
2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
 - ①「もちろん～伝わりにくいものもある」は、ある種の本の ^{とくちょう} の 特徴 を述べている。
 - ②「はじめは～実に面白く読める」は、「伝わりにくい本」に関する具体的な描写である。
3. したがって、答えは「はじめはとっつきにくくても、読み進んでゆくにつれて面白さがにじみ出てくる本がある」と「いったんは^{ほう}放り出したのに、何かのひょうしにもう一度手にしたとき、実に面白く読める」この二文にある。二つの文を要約すると、「はじめは親しめないが、後にもう一度読むと、おもしろく読める本」という意味になる。
4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。

選択肢1: 本文の内容にふさわしくないので、正解ではない。

選択肢2: 下線文の下の記事と関係があるが、そのような本は別の本であるので、正解ではない。

選択肢3: 答案の文の意味に当てはまるので、これが正解である。

選択肢4: 本文の内容には書いていないので、正解ではない。

例題 4

私は自分の行動^{こうどう}について、いかなる批評^{ひひょう}もしなかった。人の眼^めには、或いは、そうすることが行動^{こうどう}を規制^{きせい}する、ただ一つの方法^{いちぶつ}であるように見えたかも知れないのに、私にとっては、それも不要^{ふよう}であった。いや、不要^{ふよう}ではない。その暇^{ひま}もないほど、それは素早^{すばや}かった。気がついたときには、もう行動^{こうどう}していた。

(宇野千代『行動することが生きることである』海竜社による)

1991 年 1 級試験問題Ⅲ—(1)

【問い】 「それ」とは、何のことか。

1. 批評 2. 人の眼 3. 規制 4. 行動

正解： _____ 番

解き方

- 設問の「それは素早^{すばや}かった」まで読んで、文の意味を理解しよう。
- 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
 - ①「私は自分の行動^{こうどう}について～批評^{ひひょう}もしなかった」は、自分の行動に関する態度である。
 - ②「人の眼^めには～不要^{ふよう}であった」は、人の態度(眼)に対する否定的な意見である。つまり、行動を批評すること、あるいは、行動を規制^{きせい}することが、私は不要である、という意味である。
 - ③「その暇^{ひま}もないほど」の「その暇」は、行動に対する批評、或いは行動を規制することを指すものである。
- 文章を要約すると、「私は自分の行動を批評する暇もないほど、その行動は素早^{すばや}かった(速^{はや}かった)」ということになる。選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。
- 正解は「行動」である。

例題 5

私たちはどんな時に悩むのだろう。就職を決める時、A 社にするか B 社にするかで悩む。今交際している彼女と結婚するべきかどうかで悩む。つまり何かの選択場面、決定場面に立たされた時に悩むのである。しかし、若者たちは選ぶことができない。いやその前に^(注1)そもそも選ぶとしていない。選ぶ意志がないのである。

(中略)

就職と結婚は、人生の二大^(注2)イベント。よい配偶者に恵まれて、自分を^(注3)生かせる仕事に就く。これが今も昔も、幸福の二大条件である。この二つを自分で選ばないのなら、たしかに大した悩みも^(注4)葛藤も生まれてこないだろう。しかしそれで^(注5)果たして、自分の人生を生きていると言えるだろうか。

けれど、それが今の若者の「当たり前」なのである。

(諸富祥彦『＜むなしさ＞の心理学—なぜ満たされないのか』講談社現代新書による)

2005 年 2 級試験問題Ⅱ—(3)

(注 1) そもそも：はじめから

(注 2) イベント：「イベント」とも書く。行事のこと

(注 3) 生かす：よさ、能力を十分に引き出して使う

(注 4) 葛藤：反対の二つの気持ちの間でどうしようかと悩むこと

(注 5) 果たして～だろうか：本当に～だろうか

【問い】 「それ」は何を指すか。

1. 人生で大切なことも自分で決定しないで、あまり悩みを持たないこと
2. 人生で何かを決定する時、何が自分にとって幸福かをよく考えること
3. 人生で悩みや葛藤を持たないことについて、実は疑問を持っていること
4. 人生で最も大切なことは、人に聞かずに自分の意志で決めようとする事

正解： _____ 番

解き方

1. 「私たちはどんな時に悩むのだろう」は、話題の提起の部分。
2. 「A社にするか～時に悩むのである」は、「悩み」が生まれる時の例を挙げた部分。
3. 「しかし、～選ぶ意志がないのである」は、若者たちにある問題を指摘した部分。
4. 「就職と結婚は、人生の二大イベント」は、もう一つの話題である。
5. 「よい配偶者に恵まれて～生まれてこないだろう」は、「悩み」が生まれない前提条件。
6. 「しかしそれで果たして、自分の人生を生きていると言えるだろうか」は、筆者の意見である。言い換えれば「就職と結婚、この人生の二大イベント、幸福の二大条件を自分で選ぶべきである。しかし、もし自分で選ばないのなら、たいてい悩みなんか生まれないかもしれないが、これは自分の人生を生きているとは言えない」ということになる。
7. 「けれど、それが今の若者の「当たり前」なのである」は、若者の考えややり方は筆者とは反対であることを指す。

選択肢1: 正解。

選択肢2: もし今の若昔が「幸福をよく考える」ならばいいが、筆者の目の中では、今の若者はそうしようとしていない。

選択肢3: これは筆者自身の意見で、若者の考え方ではない。

選択肢4: 本文の内容には合っていない。